

H 2 5 年度 教育目標達成のための方策

☆校訓 自律独創 自学自習 勤勉力行 明朗闊達

☆教育目標 「一人ひとりを大切にし、生きる力を育む」

I 「生きる力」を育む教育の推進 <教科指導・学習指導の充実→学力の向上>

○自立（自ら考え、行動する生徒・学ぶことの喜びを感じる生徒）

1 「わかる授業」実践への工夫・改善…

指導方法の工夫や言語活動を充実させる授業計画・教科指導の計画

(1) 授業時数の確保 総授業時間数だけでなく、各教科標準時間数の確保

(2) 少人数授業によるきめ細やかな指導

県教委加配：新学習システム1，75（週29時間）＝教科：英語・数学

市教委：学力クリエイト事業支援1（週24時間）＝教科：英語（授業等補助）

(3) 基礎・基本の定着と学力向上

各教科又は各自での工夫(低位生徒減・中間層底上げの工夫) 夏季休業中職員面談
放課後、長期休業中の補充指導・質問日、朝学習

学力クリエイト事業支援3：補助員による平日・テスト前補習（全学年）

夏季休業中10日間前後（中3）…教科担当との連携を目指す

(4) 生徒の学習定着度確認 文科省学力テスト（中3）悉皆調査 4/24（水）

①市教委：学力調査（中3：6月13日・11月7日）

②市教委：到達度調査（中2：2月） 各教科研究会作成の問題→3月個人票返却
25年度より全中学校で実施

③定期テスト・各種テストの充実 H27年度学区拡大に向け評価規準の意識

2 読書活動の推進

図書館の活用充実 委員・図書ボランティアによる運営 読書活動推進

3 教育機器・特別教室の活用 視聴覚・LL・コンピュータ教室・

特別活動室・人権室の利用促進・有効活用

4 学習習慣（家庭学習）の確立 各教科での工夫と学級担任との連携

5 特色ある学校づくり 総合学習・「行事の小田北」 *耐震工事本格化

6 作品の展示、発表の機会

文化発表会、音楽祭、英語祭、各教科研究会、契沖短歌等

7 検定試験の奨励 英語検定、漢字検定の実施

○敬愛（自分を大切にし、他人を思いやる生徒）

1 道徳 年間計画による各学級・学年での実施 公開授業の実施

H27年度 阪神研究発表

2 あいさつ運動、自主的・自律的な活動、地域と連携した緑化活動(スマイル等)

3 学校行事、生徒会、委員会、部活動等の推進

4 生徒指導 担任の個性を生かしながらも組織的な学級経営の充実を図る

担任・副担一学年団一生徒指導主事 組織的な指導体制と関係機関との連携

学級経営と教科指導の充実が、生徒指導に通じる（学校評価より）

5 特別支援教育 特別支援学級との交流、該当者の個別指導計画の作成

- 6 不登校指導 月3～4回程度の訪問等による本人及び保護者の状況把握
- 7 特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー（週1回）や
関係諸機関との連携
市教委：学校訪問指導員、はつらつ学級 県教委：山の学校、やまびこの郷
- 8 教育相談の充実 年2回（6時間の時は45分授業）、長期休業中の活用

○精励（自らの力で未来を切り拓く、たくましい生徒）

- 1 教科体育の充実
- 2 体育的学校行事の充実
- 3 キャリア教育 職業調べ（1年）トライやる（2年）
進路指導（自己理解・生き方指導）
上級学校説明会・学区拡大に向け（保護者対象あり・PTA連）・面談等（3年）
- 4 宿泊学習（1年）・修学旅行（3年）の実施
行動様式、都会にない自然体験活動
- 5 保健だより等の活用
- 6 生徒会活動の活性化 本部、委員会、行事等実行委員会の活性化
- 7 防災訓練の実施
- 8 人権教育、食育、環境教育 全校一斉実施：人権作文
- 9 部活動の活性化 新学習指導要領で位置づけが明記された
 - ①より多くの教員が部活動に係わる体制を作る
 - ・異動等により顧問不在の時（年度末又は総体までの顧問 外部コーチ招聘）
今年度の外部コーチ→
男子卓球：村上さん、男子バスケット：車さん（7月まで）、
女子バスケット：未定（8月から）
 - ・学校外スポーツ活動（小田北中の名称使用）担当 以下の2種目です
硬式テニス（3年）…年度当初の登録・名前貸し・保護者との連絡のみ（担任）
水泳（2・3年）… 中体連の主催の大会：市・阪神・県大会
 - ②文化部の充実を図る（新設部）
 - ③家庭と地域の理解と協力を得る（保護者会開催等各部単位で）
 - ④下校時間（2～11月：午後7時 12～1月：午後6時30分）
30分延長の特例大会有りますが、申告して下さい。
 - ⑤練習計画を立てる（活動と休息のバランス、ノー部活デイの設定など）

II 「地域とともに歩む学校」

○「信頼・責任・誇り」を基にした活動の充実

- 1 学校公開（5・10月）、保護者懇談会（7・12・3月）の実施
- 2 広報活動（情報の発信） 学校便り、ホームページ、各種たよりの発行
PTAメールの活用（保護者に登録奨励）
- 3 学校評価等の実施と公表
- 4 保護者対応

時代の変化と共に保護者の価値観は多種多様化している。保護者と共に3年間にわたって、育てていく必要がある→対応・話し方の工夫。

- 5 小中連携… 9年間で育てていくという意識の醸成
生徒会交流・小6の夏季休業中クラブ体験・年度末の情報交換
教員相互に学校訪問、夏季合同研修、クラス分け、その他アイデア
- 6 地域との協働・参加 地域コンサート等参加・スマイル広場・神崎総合センター
夏季休業中の組織的・計画的補導活動

- 教育環境の整備と校務処理・職員研修 *耐震工事が本格化します。(～2月頃まで)
- 1 諸会議の効率化と計画的な組織運営・校務処理 ノー残業デー(毎週月曜日)
電子化による事務処理(サーバーS・Xの利用)、
スズキ校務による処理(市内統一の方向へ) *指導要録等遅れたら市内全体に影響
会議の統合・精選化 →(生徒と向き合う時間を増やす) 職員会議はXファイル使用
出勤簿押印、市教委等宛書類・点票交換 提出期限遵守
 - 2 個人情報の管理 Sサーバーでの管理 個人情報入ったUSBは持ち出し禁止
 - 3 環境整備・美化 学習環境の整備(教室)
- 校内外緑化推進：生徒会美化委員会 学校西南側フェンス緑化 工事後、東門前整備
北館1階元教具室(現：市職員室)→会議室へ移行(生徒立ち入り禁止)
- 4 職員研修・作業 夏季休業中(道徳・人権、教育課程、小中連携等)・職員作業
 - 5 服務事故、学校事故の防止 危機管理意識の高揚、安全指導、交通事故防止
 - 6 会計 学年会計(教材費)・行事関連会計・部活動(市教委委託金・部費)
教材の選定にあたっては私費負担の軽減に心がける。
透明化を図り、保護者に会計決算を確実に(集めたお金は決算報告)

日々、計画的・組織的に実践

- ①年間行事計画に従って計画的、組織的に。安易な変更はしない。
- ②早めに案を明示し共通理解を図る。そのためには、案には何のために(目的)・誰が何をするか役割分担等を明確にしておく。不慮の事情や想定外は臨機応援に動く。
- ③学習指導や行事等終了後は、反省・感想などを元に次年度の計画する。
(終了時点で次年度概要案を決める方向へ) PDCAサイクルの意識
- ④組織的に動く(学年・学校単位) みんなで動く(一人で悩まない、動かない)
→学年間→学年・生徒指導・教務主任→教頭 みんなで動くように心がける。
*特に学年がまたがっているとき報告連絡相談は必須
そのためには情報共有・共通理解 計画的な事前の準備が必要
- ⑤3年間を見通した指導を(保護者に説明責任を果たす)
今は、時の流れが速い。10年ひと昔ではない。3年ひと昔?
経験や知識は大事だが、改革の壁になることもある。
経験は重要だが、毎年同じ事をしては? 常に自己変革の意識が必要です。
次回、学習指導要領改訂(H30年頃?)に向けて動いています。
(教育再生実行会議・中教審など)

*前例踏襲より、前例はないが理にかなない生徒の実態に合致し、生徒のためになることは検討し、実現可能なら実行します。
経験に関係なく、新しいアイデアをどんどん出して下さい!